

寄 附 講 座 の 概 要

1 部局名

千葉大学大学院医学研究院

2 寄附講座の名称

運動器科学革新医療創成寄附講座

3 寄附の時期及び期間

設置期間

2019年10月1日 ～ 2023年9月30日

4 担当教員名及び職名

特任准教授 江口 和

特任助教 廣澤 直也

5 寄附講座の教育研究領域の概要（カリキュラムを含む。）

運動器とは身体運動に関わる骨、脊椎、関節、軟骨、椎間板、筋肉、脊髄・末梢神経の総称であり、運動器を介した身体活動によって人は自立した生活や尊厳ある活動を行っている。加齢とともに運動器の働きが衰えると生活の質（Quality of Life: QOL）が低下し、腰痛、関節痛の生涯罹患率は85%と報告され、男性、女性ともに1位にランクされる国民愁訴である。さらに骨折や脊椎・関節疾患など運動器疾患は寝たきり・介護の原因の第1位であり、超高齢社会に向かうわが国では、社会的問題になっている。スウェーデンの統計では運動器障害は脳血管障害の4倍もの医療費が費やされ、WHOは2000年から2010年までを「運動器の10年」に指定した。運動器疾患に対する治療は運動療法・薬物治療など保存治療が基本であり、これらの保存治療に抵抗し手術の必要があると判断された場合、適宜手術が行われる。少子高齢化に伴い、高齢者の運動器疾患の増加、財源・マンパワー不足など、わが国が直面する超高齢社会の医療に対応するため、運動器疾患の予防を含めた運動器科学に関する革新的医療の創成が急務である。

千葉大学大学院医学研究院整形外科学では運動器慢性疾患の疼痛機序解析として、腰痛や膝関節痛、股関節痛などの分子生物学的機序解析が行われ、国内外で情報を発信してきた。さらにMRIを用いて生体組織内の水分子の拡散の方向性を強調化した拡散テンソル画像(Diffusion tensor imaging: DTI)による神経損傷の可視化に関する革新的技術を開発し、痛み診断・治療の向上を目指してきた。

整形外科の垣根を超え、分子生物学、解剖学、バイオメカニクス、再生医療、ロボット工学、人工知能(Artificial Intelligence)、放射線医学など多岐領域にわたる分野との連携を積極的に推進し、運動器障害の予防や機能回復に向けた技術・治療の開発、画像診断の開発や基盤となる基礎的研究まで広く専任に対応する必要がある。

寄附講座にて行う教育の目標は、実際の運動器診療において生まれる新しいアイデアを活かして現場のニーズに即した運動器科学における革新的医療の創成に積極的に寄与することのできる人材の育成である。このため、千葉大学医学部附属病院整形外科、およびその関連教育施設、多岐領域にわたる分野、企業と連携し、新しい手術手技や器械、画像診断などについて総合的に評価し、よりよい治療成績を得るための基礎的研究・治療・手術手技開発を確実かつ安全に行うことのできる人材育成と輩出をめざす。